



炉物理連絡会ニュース (No. 13)



1990年6月20日発行

目次

1. 第45回「炉物理連絡会」総会議事要旨	1
2. 第33回「NEACRP会合」論文募集	2
3. 「Advances in Mathematics, Computations, and Reactor Physics 国際トピカルミーティング」案内(再掲)	3
4. 「高速炉システム国際会議(FR'91)」案内(再掲)	4
5. 国際会議の終了報告	5
6. 第22回「炉物理・夏期セミナー」の最終案内	5

1. 第45回「炉物理連絡会」総会議事要旨

1990年4月3日(12:10 ~13:00) 於 東大・工 原子力学会春の大会会場

45名の参加を得て総会が開催された。前半は神田幸則前委員長、後半は藤田薫顕委員長の司会で、議事が進められた。

(1)平成元年度事業報告

第21回「炉物理・夏期セミナー」を比叡山延暦寺会館で開催。「炉物理の研究」の第39号(総会開催時には印刷中)、「連絡会ニュース」No. 11, 12を発行した。

(2)平成元年度決算報告

収入 1,498,957 円、支出 320,922 円で 1,178,035 円を次年度に繰り越す決算が報告され、了承した。

(3)平成2年度役員投票結果

平成2年度の役員投票結果(投票総数114票)に基づき、次の新役員を総会で承認した。

委員長	藤田薫顕	(京大炉)
副委員長	中沢正治	(東大・工)
企画	土橋敬一郎	(原研)
企画	中川正幸	(原研)
総務	井口哲夫	(東大・工)
総務	宇根崎博信	(京大炉)
編集	錦織毅夫	(阪大・工)
編集	山根義宏	(名大・工)

(4)役員投票方式の検討

現在の役員投票方式(候補者名の記載された葉書に投票して返送する方式)について、学会事務局より次の3点を理由に、簡素化検討の要望が出された。

1. 現方式は本連絡会のみ採用。
2. 葉書の発送・回収と事務量が多い。

3. いつも満票に近く、投票は形式的ではないか？

検討した結果、平成3年度役員選出より、次の新方式とすることに、総会で決定した。

1. 春の総会前に「連絡会ニュース」で予め候補者名を会員に周知する。
2. 春の総会時に了承を得る。

(但し、総会成立の定足数は定めないことを申し合わせた。尚、現会員数は214名である。)

(5)藤田新委員長の挨拶

予め検討の後、秋の学会の総会に次期幹事機関の承認を願うので、協力をお願いしたい。

(6)神田前委員長の報告

「連絡会ニュース」No. 12 (1990年2月20日発行)の「1. 炉物理連絡会委員長よりのお知らせ」として既に報告されている、以下の3点について再度報告があった。

1. 「炉物理研究委員会」の報告を「炉物理の研究」または「連絡会ニュース」に載せる件。
2. 総会回数の食い違いの件。
3. 活動事業の概要を「炉物理の研究」裏表紙に掲載する件。

尚、この詳細は「連絡会ニュース」No. 12をご覧ください。

(7)第22回炉物理夏期セミナーの案内

土橋敬一郎氏(原研)より、配布資料に基づいて夏期セミナーの案内があった。尚、学生・院生の参加をお願いしたいとの要請があった。(セミナーの詳細は本ニュース最終頁をご覧ください。)

(8)企画委員会報告

内藤企画委員より、学会の口頭発表のテー

マ分類が変更になるとの報告があった。

(9)編集委員会報告

山根編集委員より、欧文誌の投稿促進策を練っているとの報告があった。これに対して、

1. 投稿料を下げることはできないのか？
2. JNST 掲載論文の引用回数は増えているので、もっと投稿しては。
3. 査読委員に外国人を加えることを検討しては？
4. 国際会議で授賞した論文の投稿をお願いする。
5. 活字指定の省略など投稿の簡略化も検討して欲しい、

等の意見が出された。

(10)炉物理研究委員会報告

金子委員長より、本年10月15日～19日にパリで開催される第33回 NEACRP 会議への提出論文募集の案内があった。

席上、炉物理研究委員会の情報が、十分に各機関に流れないのではないのかという意見が出された。これについては、各研究機関から出ている委員に情報の流布について、ご努力を願うことになった。

(11)その他

竹田敏一氏(阪大)より、本年マルセユで開催される(4月23日～27日)炉物理国際会議の次は、2年後に米国ワシントンの近くで開催予定であるとの紹介があった。

仁科浩二郎氏(名大)より、学振招聘研究者としてスウェーデンの Pazsit 氏が5月15日から8月6日まで、名大に滞在するとの紹介があった。

2. 第33回NEACRP論文募集

炉物理研究委員会・原子炉システム専門部会委員に配布された、第33回 NEACRP 会合

への提出論文募集案内を掲載します。

論文表題締切：平成2年6月22日

論文概要締切 : 平成2年7月16日
最終論文締切 : 平成2年9月25日
<問い合わせ先> 日本原子力研究所東海研
原子炉工学部原子炉システム研究室

石黒幸雄

Tel. 0292-82-5360

Fax. 0292-82-6122

今回募集の分野

New topics

1. Current Issues of Pu Recycling in LWRs.
2. Physics Related Safety Aspect of LWRs.
3. Fusion Blanket and Shield Neutronic Effect with Emphasis of Uncertainty of Nuclear Data.
4. Neutron Facility for which Reactor

Physics Plays Important Role.

5. Representation of Feed Back Effect in 3D Nodal Kinetics Code.

Topics Carried Over

1. Evaluation of Uncertainty in FBR Burn up Reactivity Swing.
2. Comparison of the Reactivity Feedback Physics of Nitride and Metal FBR Fuel
3. The Reactor Physics of Advanced Gas-Cooled Reactor.
4. Engineering and Physics Aspects of Transuranium Burning by Reactors and Accelerators.
5. Identification of Factors Affecting Local Stability in LWRs and HWRs.
6. Physics Method in Fuel Accountability

3. 「Advances in Mathematics, Computations, and Reactor Physics 国際トピカルミーティング」案内

1991年4月28日(日)～5月1日(水)、於 アメリカ ピッツバーグ

標記の会合が American Nuclear Society の Mathematics & Computation Division と Reactor Physics Division の共催の下、上記の日程で開催されます。炉物理関係のトピックスは以下の通りです。

- Reactor Physics, Theory, and Analysis Methods
- Advanced Reactor Concepts/Designs
- Space Reactor and Research Reactor Physics
- Physics and Safety Aspects of Core Design
- Reactor Design Validation and Operating Experience
- Physics of Reactor Operation
- Physics of Criticality Safety

- Point and Space-Time Core Models for Transient Analysis
- Nuclear Plant Analyzers, Data Bases & Code Systems
- Improvement and Validation of Plant Simulation Codes
- Instrumentation, Control, and Monitoring
- Fuel Cycle and Fuel Management
- Shielding and Core Management
- Nuclear Data
- Integral Experiments - Measurements and Analysis
- Reactor Physics Calculations Versus Measurements
- Sensitivity Theory and Data Adjustment

Techniques for Reactor Analysis
Physics and Computational Aspects of
Fusion

Bettis Atomic Power Laboratory
P. O. Box 79
West Mifflin, PA 15122-0079, U. S. A.

マリー (1,000 語) 縮切:

1990年 8 月 20 日

論文縮切:

1991年 1 月 15 日

マリー送付先

I. K. Abu-Shumays (Program Chairman)
RT-Mathematics, 34F

<問い合わせ先> 〒 565 吹田市山田丘

大阪大学工学部原子力工学科

竹田 敏一

(Tel. 06-877-5111 内 5072

Fax 06-875-5696)

4. 「高速炉システム国際会議 (FR '91)」案内

Int. Conf. on Fast Reactor and Its Fuel Cycles

— Current Status and Innovations Leading to Promising Plants —

1991年 10 月 28 ~ 31 日、 於 京都国際会館

日本原子力学会、動燃事業団、原電の主催
による標記の国際会議が上記の日程で行なわ
れます。会議の要綱は以下の通りです。

) Topics:

Development Program on Fast Reactor
and its Fuel Cycles

—Current status of research and
development

—Development programs

Experience in Design, Construction and
Operation of Fast Reactor and its Fuel
Cycle Facilities

Advanced Technologies Applicable to
Fast Reactor

—Artificial intelligence, robotics,
new materials, computer simulation,
etc.

Innovation and Advanced Designs of
Fast Reactor

—Advanced concepts

—Improved economy

—Improved safety and reliability

—Advanced core and plant design
aspects

—Diversified utilization of fast
reactors (Process heat co-generation
, transmutation of transuranium,
etc.)

• New Technology for Fast Reactor Fuel
Cycles

• Evaluation of Fast Reactor Economy
Including Fuel Cycle Cost

—Evaluation methods

—Prospects for cost reduction

• Licensability, Safety Criteria and
Design Criteria

• Roles of Fast Reactor in Energy Supply
, Trend of Future Development

—Significance of fast reactor devel-
opment from the viewpoint of energy
supply, worldwide environmental
problems, nuclear safeguards, etc.

—Development strategy and future
systems

—Comprehensive evaluation of fast

reactor and its fuel cycles

〒 107 東京都港区赤坂 1-9-13

動燃事業団 動力炉技術開発部
高橋 忠男

○ アブストラクト (1,200 語) 締切:

1990 年 12 月 31 日

○ 著者確定: 1991 年 2 月 28 日

○ 本論文締切: 1991 年 7 月 31 日

<問い合わせ先>

(高速炉システム国際会議事務局)
(Tel. 03-586-3311 内 2420)

5. 国際会議の終了報告

1. 第 32 回「NEACRP 会合」は 1989 年 10 月 9 日～13 日に、米国アルゴンヌ国立研究所で開催されました。会合の報告は「炉物理の研究」第 39 号に掲載されています。

Conf. on the Physics of Reactors: Operation, Design and Computation) が開催されました。この会議の簡単な報告は、学会誌に掲載される予定です。

2. 1990 年 4 月 23 日～27 日にフランスのマルセーユで PHYSOR90 国際会議 (Int.

6. 第 22 回「炉物理・夏期セミナー」の最終案内

学会誌 5 月号に既に掲載されておりますが、表記セミナーの最終案内を掲載します。締切が迫っておりますので、参加を希望される方は問い合わせ先にご連絡ください。

1. 開催期日:
平成 2 年 7 月 22 日 (日) から 25 日 (水) までの 3 泊 4 日

歴史、高度化の方向) 19:00～20:30
神田 (京大)

2. 会場:
茨城厚生年金健康福祉センター
サンピア日立
〒319-11 日立市みなと町 6-1
Tel. 0294-53-8000

第 2 日 7 月 23 日

行き方

常磐線大みか駅よりタクシー 7 分
または日立電鉄へ乗換久慈浜駅下車
徒歩 7 分

② 高エネルギー加速器における核反応 (スポレーション、核内外カスケード、電磁カスケード etc. の物理)

9:00～10:30

石橋 (九大)

③ 高エネルギー加速器の工学的利用 (高エネルギー大電流加速器の開発と現状、大型放射光、 Ω 計画)

10:30～12:00

水本 (原研)

④ 炉心システム設計 (設計理論、解析分野間の情報交換の仕組み)

13:00～14:30

内川 (日立)

3. プログラム

第 1 日 7 月 22 日

参加登録 17:00, 開校式 18:40

① トピックス 軽水炉の高度化 (開発の

⑤ 原子炉プラント建設 CAE システム (

SNA90 原子炉設計セッションより)
14:30~16:00
吉永 (日立)

⑥ BWRの安定性 (空間依存核熱結合を
考慮した炉心安定性を中心に)

16:00~17:30
横溝 (日立)

夕食および懇親会 18:00~20:00

映像コーナー 20:00~21:00

文殊の建設 (動燃)

NSRR における燃料破壊挙動 (NSRR)

第3日 7月24日

⑦ モンテカルロ法による輸送方程式の解
(多群コードと連続エネルギーコード、
統計向上技術、統計処理 etc.)

9:00~11:00
中川 (原研)

⑧ 遮蔽計算におけるモンテカルロ法の応
用 (深層透過、ストリーミング)

11:00~12:00
植木 (船研)

⑨ 放射線計測技術の進歩 (計測器とその
使い分け、データ処理、新しい計測技
術)

13:00~14:30
中沢 (東大)

⑩ 微量中性子検出技術 (常温核融合反応
の確認のために)

14:30~15:00

大山 (原研)

原研見学ツアー 15:00~17:30

新設 JRR-3 および冷中性子ビーム実験
装置 (所要時間によりタンデム加速器
または VHTRC を追加)

若手研究者討論会 19:00~21:00

第4日 7月25日

⑪ 衝突確率法による輸送方程式の解 (ポ
ルツマン方程式から連立一次方程式ま
で、衝突確率の定義と求め方)

9:00~10:30
土橋 (原研)

⑫ 非均質体系における共鳴積分 (衝突確
率の応用、mean chord length、ダンコ
フ係数)

10:30~12:00
石黒 (原研)

解散

4. 本セミナーでは、数値計算については積
分型輸送方程式の実用的な解法にテーマを
絞っております。また、従来少なかった実
験技術についても考慮しております。

5. 問い合わせ先

日本原子力研究所 原子炉工学部

土橋 敬一郎 (Tel. 0292-82-5337)

中川 正幸 (Tel. 0292-82-5321)

炉物理連絡会会員募集中!

炉物理連絡会に入会ご希望の方は、年会費 (正会員: 1,500 円、学生会員: 1,000 円) を添えて、
直接、日本原子力学会事務局までお申し込み下さい。